



## 「地産地消」って いったい なんだろう？



「地産地消」とは、その土地で採れたものを、その土地で消費することで、主に4つの「いいこと」があります。

### ■ 4つの「いいこと」

- ① 消費者がその地域の風土に合った農産物を新鮮なうちに食べることができます。
- ② 生産者と消費者は、互に顔が見える関係のため、生産者は安全な農産物を作り、消費者は安心してそれを食することができます。
- ③ 地域の農業や食文化を理解するきっかけになります。
- ④ 簡易包装ですむばかりか、運搬は近辺までのため、省資源、省エネルギーにつながります。

## 全国で広がってます 「地産地消」の取り組み



▲多くの人でにぎわう市内の農産物直売所

最近、牛海綿状脳症（BSE）問題、食品不正表示問題、無登録農薬問題などが話題となり、食品の安心、安全への関心が高まっています。  
特に「地産地消」の取り組みが全国で広がっている理由として、食の安全を求める消費者の考えと、「地産地消」の考え（上記②）が一致していることがあります。  
また、地元の食材を使用した「郷土料理」を守り、後世に残すという「スローフード」運動が盛んなこともその理由の一つといえます。

## 見直された 農産物直売所は 「地産地消」の拠点

新鮮な旬の野菜が手に入ることから、農産物の直売が見直されています。

現在では、全国に1万カ所近い直売所ができ、「地産地消」の拠点となっています。

美濃加茂市は、県内でも農産物の直売所が多い地域で、今年の4月にオープンした昭和村のJAMめぐみの青空市場や、同グリーンセンターなどの直売所が人気を集めています。  
また、古井や蜂屋、加茂野の朝市（青空市場）も地域の人たちに人気です。

### 農業の専門家に聞きました



岐阜県中濃地域農業改良普及センター  
水川 誠さん

「地産地消」が体にいい訳  
農作物がどの時期に採れるかを考えてみてください。暑い夏には体を冷やすトマトやナスなどの果菜類が、また、寒い冬には体を温めるダイコンやイモなどの根菜類が採れます。このように季節に合わせて採れるもの、つまり「旬」のものが体にいいといわれる所以です。  
地域の「旬」のものを、その地域の人食べる「地産地消」の考えが勧められるのはそんな面があるからだと思います。  
また、身近に農業があることで季節を感じることもできます。それは子どもたちの教育にも良いことだと思います。  
私としては、この「地産地消」を機に、地域の農業を見つめ直し、農家の人たちの努力を理解してほしいと思います。